

有限会社テクノス

Company
Profile

〔所在地〕 総社市井尻野12-4

〔従業員数〕 57人 〔設立年月〕 2004年11月 〔業種〕 金属加工業

背景・課題

働き方改革推進に向け業務の効率化を図る

2004年の創業以来、アルミ製品の加工を主軸に鋼材、ステンレス、銅、樹脂などの精密部品、金型治具加工を展開している。近年、ものづくり業界では、図面に忠実な製品を作るだけでは競争力を発揮できない。品質、コスト、納期といったプラスアルファの提案力を“サービス”として要求されるようになってきており、そういった要求に応えるにはデジタル化が欠かせないと感じている。弊社では、バックオフィスについては、クラウドシステムのグループウェアやコミュニケーションツールなどの導入による作業効率化を進めている。ただ肝心の製造関連部門の大部分はデジタル化が未着手だった。顧客の要求に応えるために残業でなんとか対応している現状を打破し、働き方改革を同時に推進していくためにも、製造関連部門におけるデジタル技術活用による生産性向上や業務の効率化が喫緊の課題と感じ、専門家派遣を希望した。



取組と成果

見積り自動化と稼働率の見える化で生産性向上

専門家の指導を受け、会社全体の業務フローの中から生産性向上を阻害するボトルネックを受発注業務部門の「見積り算出までの作業時間」と製造部門の「稼働率の低さ」と特定した。多品種少量の受注が多く取引先から1日に届く見積り依頼図面は100~200枚にもおよぶ。少しでも早い回答をしようと5人体制で日数を掛けて見積りを作成しているものの、それでも相当の日数を要することが多く、機会損失が生じていた。今回提案された、クラウド型見積りソフトでは、工場間の情報共有、AIによる類似図面のピックアップ機能、過去見積書の検索機能などを用いて材料単価や加工、表面処理工数の短時間での算出が可能となり、大幅な作業効率により更なる受注機会の獲得が期待される。

また、弊社では約40台の加工機を保有しており、これらをいかに効率的に稼働させられるかが利益率向上の大きな要素となる。現状、稼働率の可視化ができておらず、損益に及ぼす影響度が不明だった。そこで既存加工機のパトライトの色を検知し稼働状況を確認できる「シグナルウォッチャー」を10台の加工機を対象に試験導入した。各機械の稼働状況を知ることによって個別固定費と生産量から見た損益分岐点を把握し、全体のバランスを見て生産体制と利益の改善につなげたい。

取組の概要図



今後の課題・展望

部分最適ではなく全体最適で業務改善に取り組む

今回の専門家支援を通じ、必ずITツールを入れないといけなのではなく、何をやりたいか目的を先行させ、その目的達成の手段としてITがあるということに改めて気付かされた。業務改善手段としてデジタル技術が必要な部分には積極的な導入を検討しつつも並行して社内人員体制の最適化を進める方針だ。今までの加工プログラム作成設計から生産準備、加工までを1人の担当者で行う専業制から、分業制への切り替えによる高効率化も狙う。合わせて、人材不足対策に新卒採用も含めて国内外からの優秀な人材獲得にも挑戦していく。

生産性向上には社員の意識統一が必要だが、当社の場合、稼働率を重要指標とし、これを高めることで利益が上がるという認識を共有している。上がった利益が賞与などに反映されるため、全社員が前向きに捉えている。これからも、当社の経営理念を大切に、部分最適のみではなく全体最適を追求した業務改善に取り組みたい。



AIMCからのコメント

精密加工業として多くの企業からの引き合いに対し、図面から見積書を作成していたが、勤と経験による見積作成であった。社長のご子息である取締役の後継者育成も含め、取締役と綿密な会議を行い、業務フローの課題を明確化。その後、課題解決のためのIoTツールと見積自動化ツールの選定を行った。経営戦略面から新たな経営管理手法を取り入れ、IoTから稼働率のみを見える化するだけでなく、売上・利益や各製造機器の損益分析ができるようになり、経営基盤の強化を図れる体制になってきている。勤と経験、なりゆき経営からの脱却で社長とご子息の取締役の両名によるDXへの対応により、海外進出を含め更なる飛躍を目指す企業となることが期待できる。(阿部 満)